

生涯学習県民意識調査結果【概要】

1. 調査の目的

県民の生涯学習に関する実態と意識を把握し、今後の生涯学習社会づくりの推進のための基礎資料とする。

2. 調査の実施方法

- (1) 調査期間 平成21年12月9日～12月22日
- (2) 調査対象 県内在住の20歳以上の男女（県内在住外国人を含む） 2,000人
- (3) 調査方法 質問紙による郵送調査
- (4) 回収率 55.7%（1,114人）
- (5) 主な調査項目
 - ・「生涯学習」という言葉のイメージ
 - ・学習活動の現状
 - ・今後の学習活動の意向
 - ・生涯学習推進体制の整備
 - ・生活の充実度

前回調査・・・「生涯学習県民意識調査」（滋賀県教育委員会）

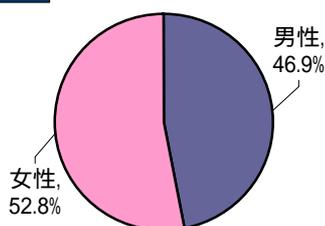
調査期間：平成17年1月24日～2月7日 標本数：3,000人
調査対象：県内に居住する満20歳以上の者 有効回答数：1,515件（50.5%）

全国調査・・・「生涯学習に関する世論調査」

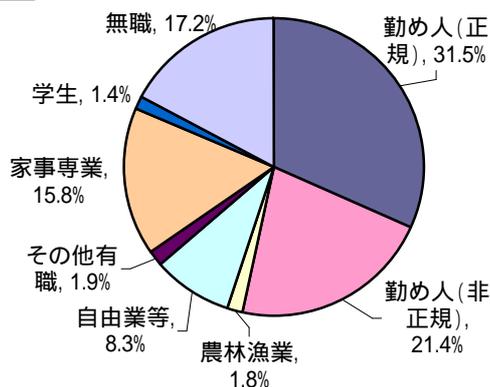
平成20年5月 内閣府大臣官房政府広報室調査による。

3. 回答者の属性

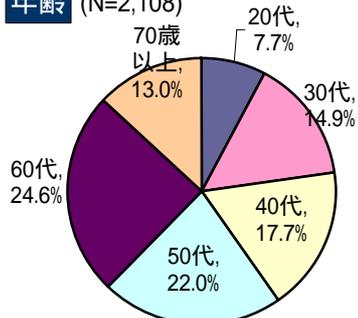
性別 (N=2,108)



職業 (N=2,108)



年齢 (N=2,108)



4. 調査結果の主なポイント

「生涯学習」という言葉のイメージ
生涯学習に対する意欲の高さ
生涯学習による生活の充実
楽しみや生きがいとしての生涯学習
地域に結びついた学習
生涯学習を妨げるのは今も昔も「時間がない」こと
今後、大切だと思う学習課題とは
各主体に期待される役割とは
年代で異なる生涯学習の姿

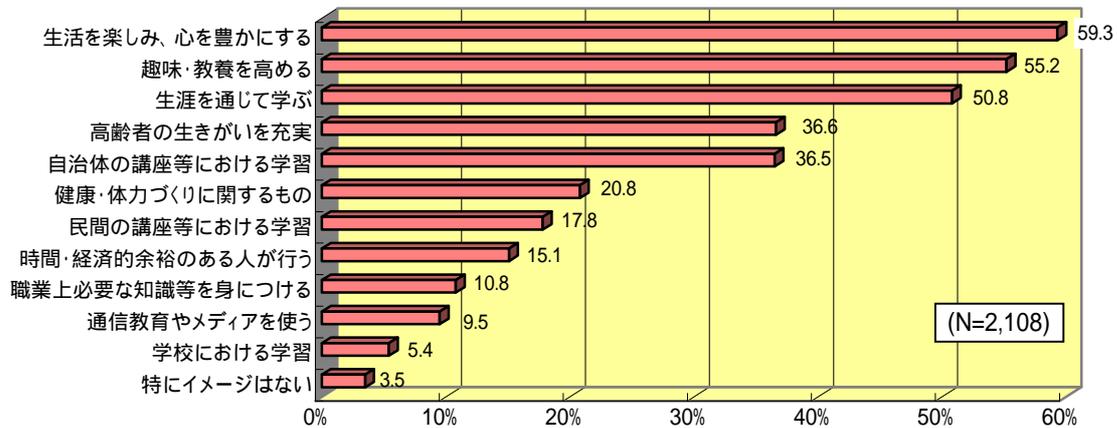
* 県内各地域とも統計的に信頼度が確保できるように、湖西地域の抽出ウェイトを2倍とし、集計時点で他地域のウェイトを補正した結果、回収数1,114に対し、規正標本数は2,108となっています。

* 無回答・その他については、簡略化のためグラフ上では表示していませんので、報告書をご覧ください。

「生涯学習」という言葉のイメージ

- ・「生活を楽しみ、心を豊かにするもの」「趣味・教養を高めるもの」「幼児期から高齢期まで、生涯を通じて学ぶこと」が上位3位。
- ・年代別に見ると、40代までは「幼児期から高齢期まで、生涯を通じて学ぶこと」が1位、50代・60代では「生活を楽しみ、心を豊かにするもの」が1位となっている。

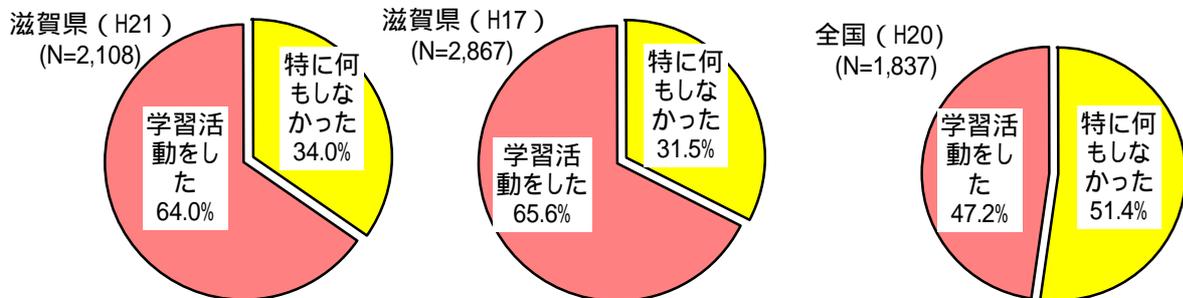
問1 問1と年齢のクロス集計



生涯学習に対する意欲

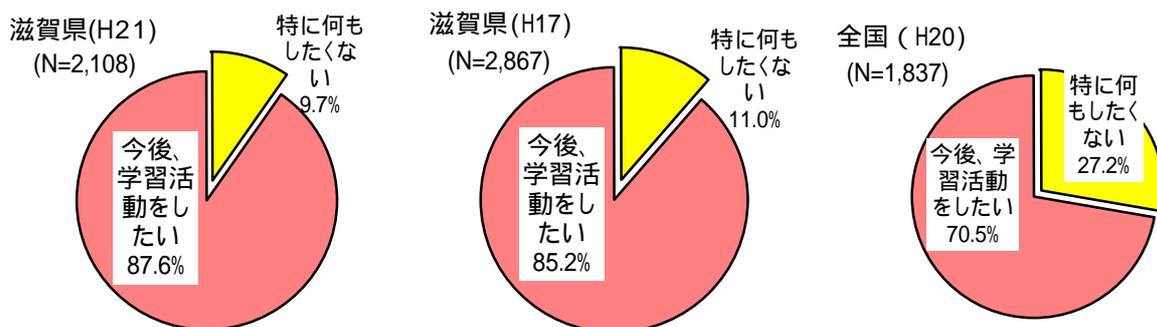
- ・過去1年間に何らかの学習活動を行った人の割合は64%で前回とほぼ同様。
- ・全国レベルと比較して、本県の生涯学習実施率は16ポイント以上高い。

問2

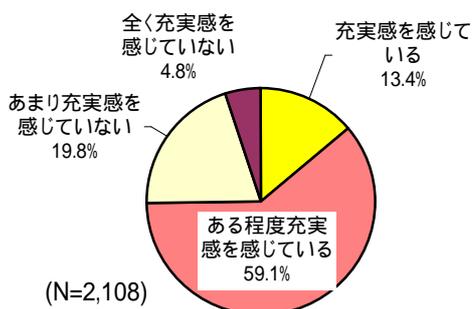


- ・今後、何らかの学習活動を行いたいという意欲のある人は全体の90%近くを占める。
- ・今後の学習意欲も全国レベルと比較して約17ポイント高い。

問11



生涯学習による生活の充実



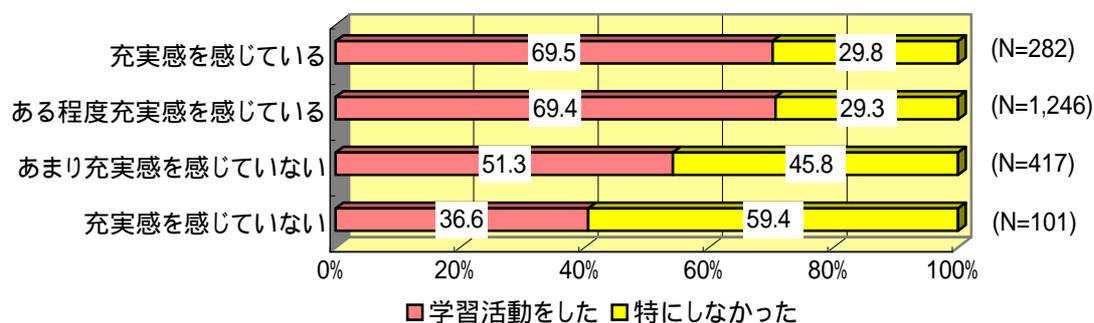
・全体の7割以上の方が何らかの充実感を感じている。充実感を感じていない人が4分の1弱。

問27

・「充実感を感じている」「ある程度充実感を感じている」と回答した人の7割が過去1年間に何らかの学習活動を行っている。

問2と問27のクロス集計

・対して、「充実感を感じていない」と回答した人の6割近く、「あまり充実感を感じていない」と回答した人の5割近くが学習活動を行っていない。

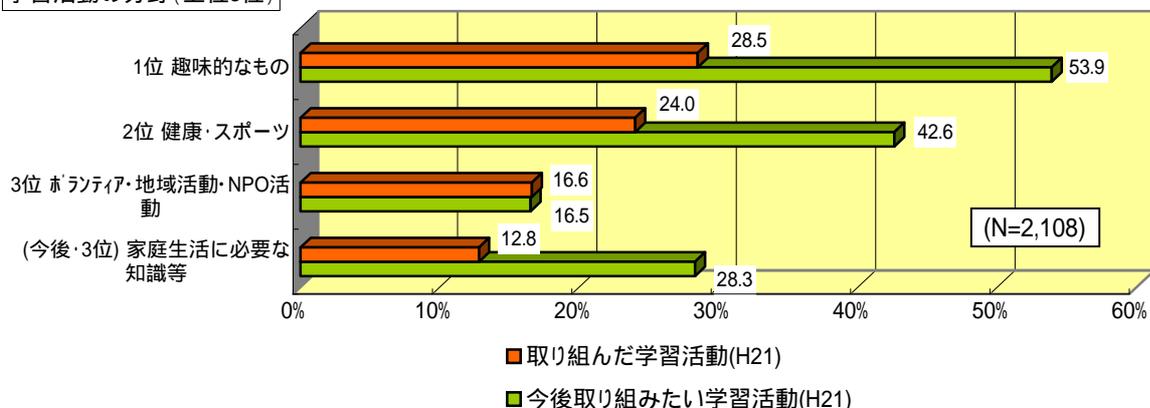


楽しみや生きがいとしての生涯学習

・過去1年間の学習活動の内容は、「趣味的なもの」や「健康・スポーツ」が前回同様上位2位を占めている。3位は「ボランティア・地域活動・NPO活動」に関すること(前回5位)。
 ・今後も、5割前後の人が「趣味的なもの」と「健康・スポーツ」に関する学習活動をしたいという意向を持っている。今後の意向の3位は「家庭生活」となっている。

問2 問11

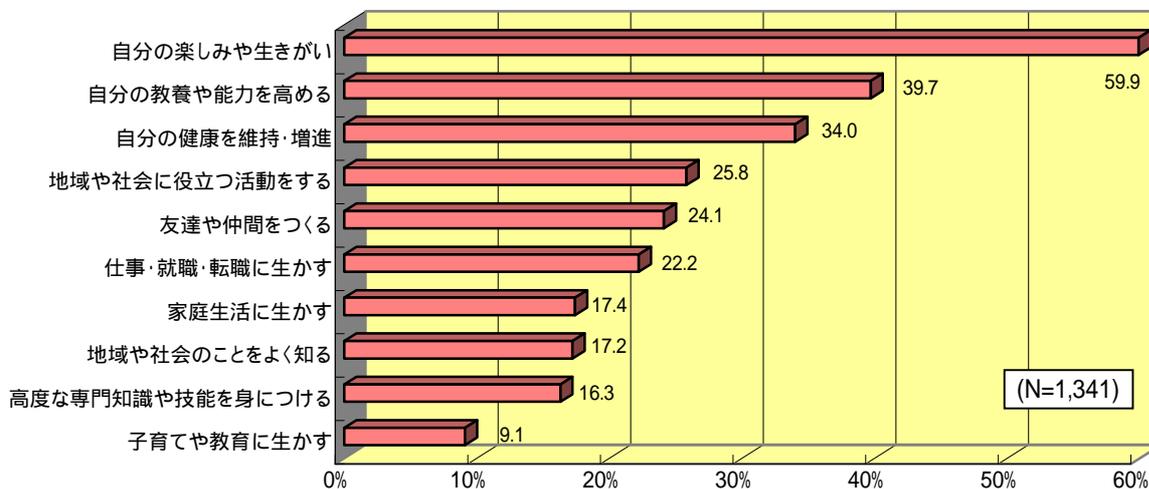
学習活動の分野(上位3位)



・学習活動の目的では「楽しみや生きがい」が6割近くある。2位は「教養や能力を高める」3位は「健康を維持・増進」が続き、前回同様の結果である。

問3

学習活動の目的



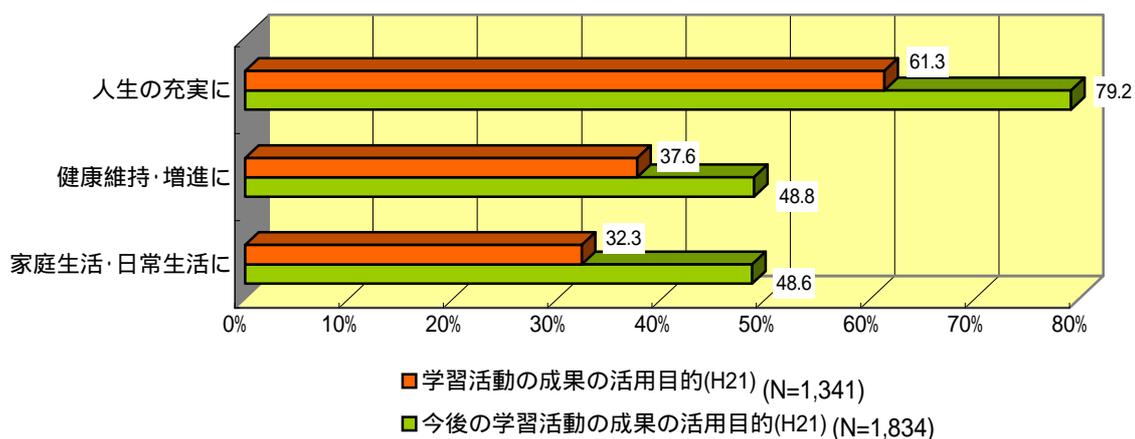
・学習活動の成果の活用目的では、「自分の人生の充実にむけて生かしている」が6割強、2位は「自分の健康の維持・増進に役立っている」、3位は「家庭生活や日常生活に生かしている」が続き、前回同様の結果である。

・今後の学習活動の成果の活用目的についても、同様の意向である。

問7

問16

学習活動の成果の活用目的(上位3位)



地域に結びついた学習

・「ボランティア活動、地域活動、NPO活動」に関する学習活動をした人の割合、および、「地域や社会に役立つ活動をするため」に学習活動をした人の割合が増加している。

問2
問3

・身近な施設である公民館・コミュニティセンターがよく利用されている。(今後も公民館・コミュニティセンターを利用したいという意向が強い。)

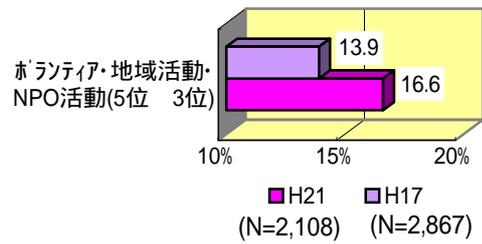
問5
問14

・学習の方法も、地域活動やサークル活動を通じて、身近にある新聞・雑誌・本を活用、公民館等の講座を通じてが多い。(今後も、公民館や地域活動を通じて学習したいという意向が強い。)

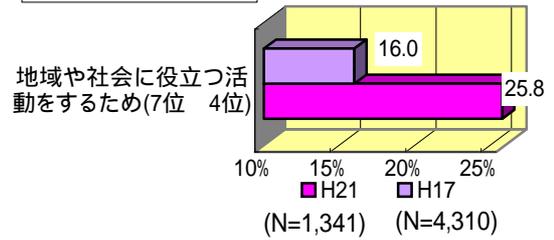
問6
問15

・以上のことから地域に結びついた学習が行われていることが分かる。

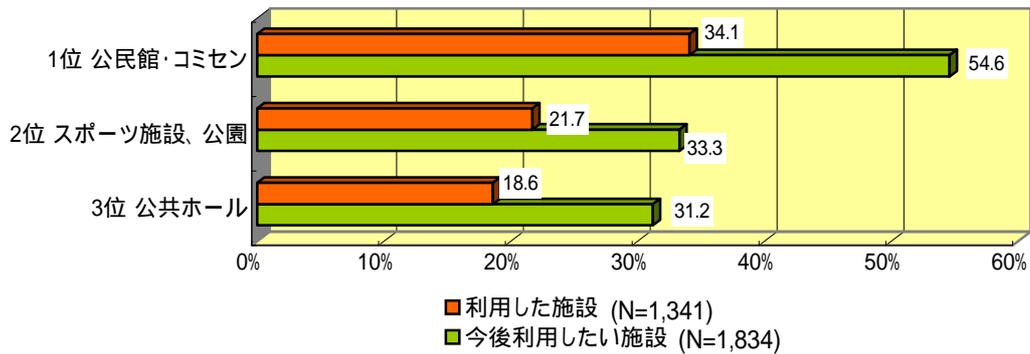
行った学習活動の分野



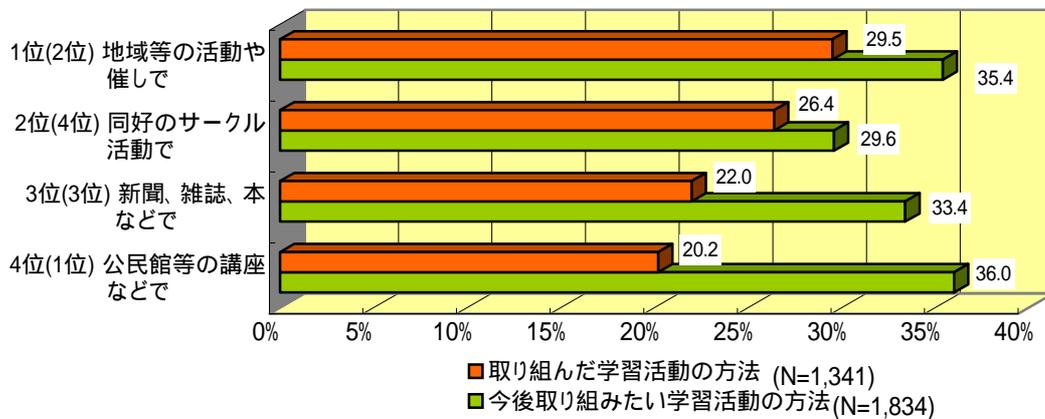
行った学習活動の目的



利用した(したい)施設(上位3位)



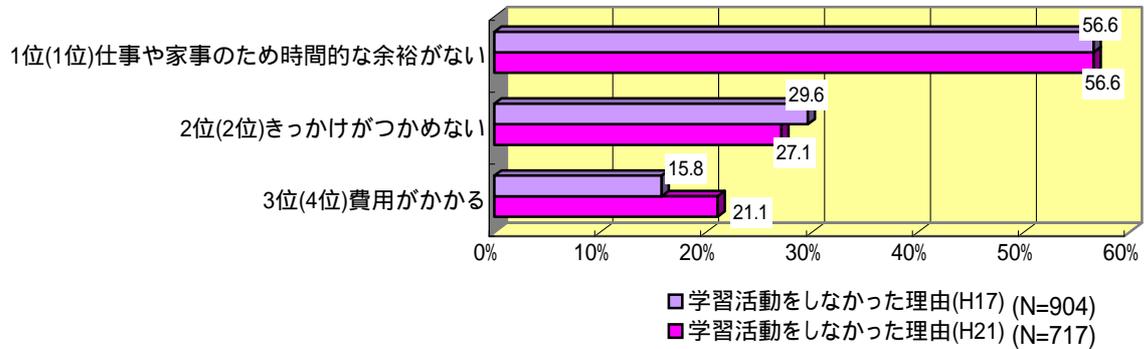
学習活動の方法(上位4位)



生涯学習を妨げるのは、今も昔も「時間がない」こと

- ・過去1年間に学習活動をしなかった人の理由としては、「時間的な余裕がない」を、前回、今回ともに5割以上が選択し、それぞれ最も多い。
- ・2位は前回同様「きっかけがつかめない」、3位は「費用がかかる」が続く。

問10

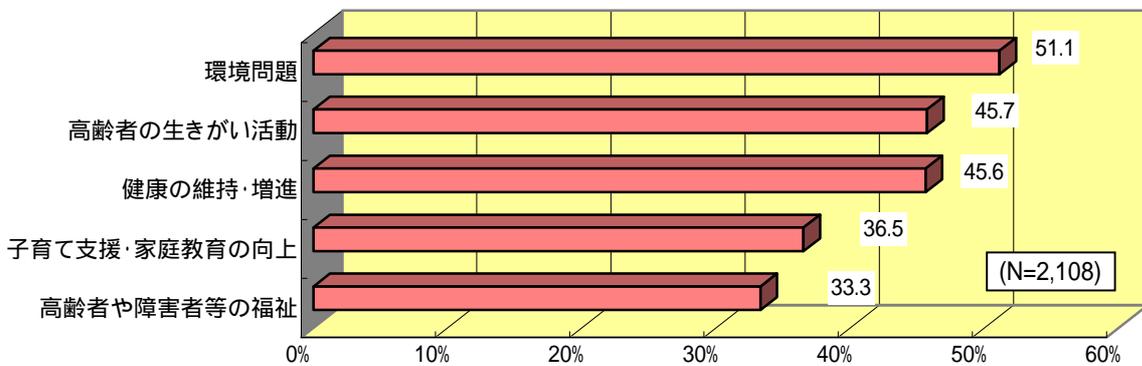


今後、大切だと思う学習課題とは

- ・今後の重要な学習課題として、「環境問題」が最も多く、全体で5割強が回答した。
- ・次に「高齢者の生きがい活動に関すること」「健康の維持・増進に関すること」「子育て支援や家庭教育の向上に関すること」「高齢者や障害者等の福祉に関すること」が続く。

問18

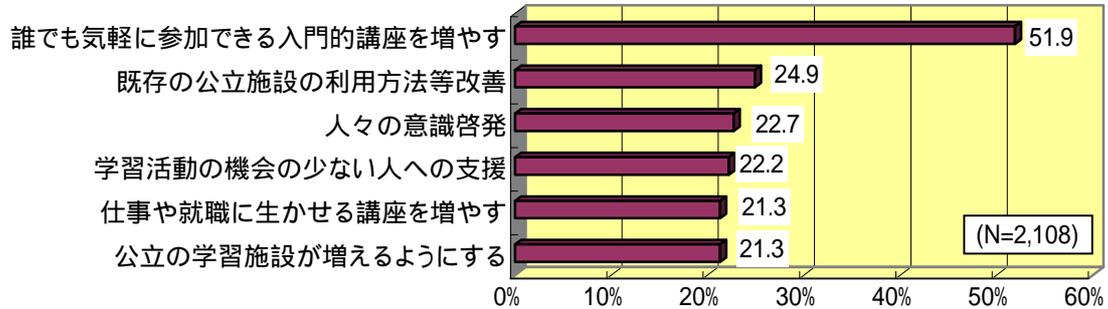
今後の重要な学習課題(上位5位)



各主体に期待される役割とは

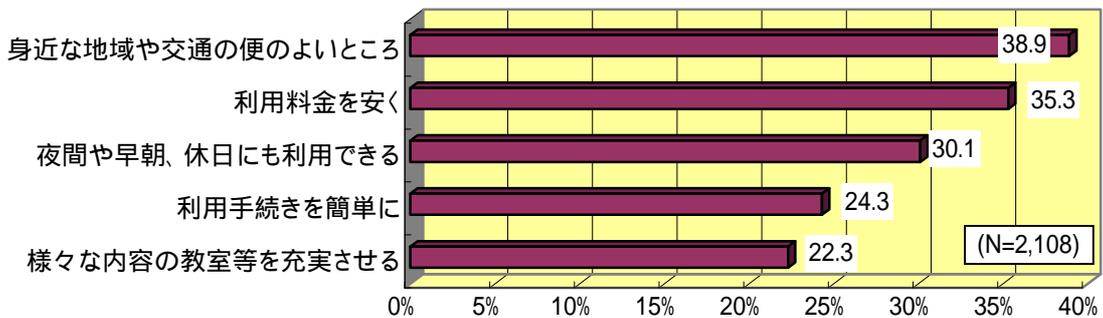
行政に期待すること(上位5位)

問20



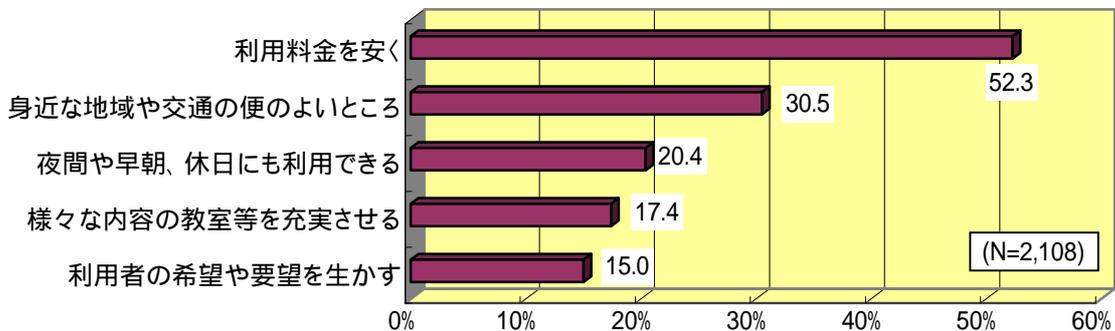
公立の学習施設に期待すること(上位5位)

問21



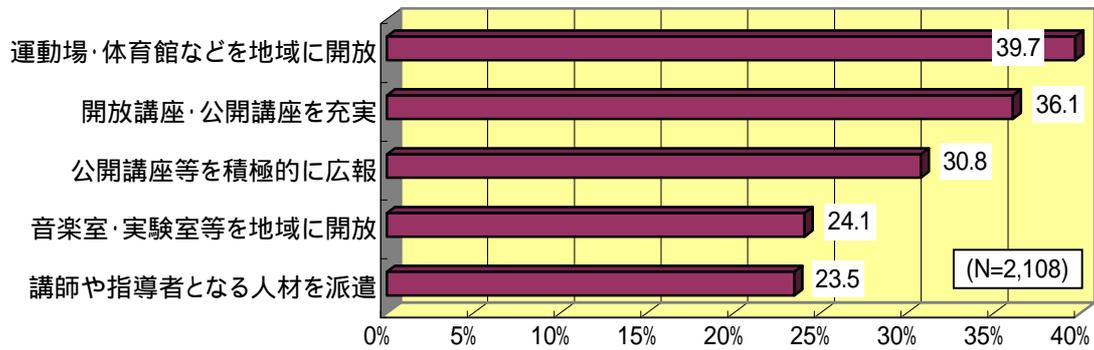
民間事業者に期待すること(上位5位)

問21



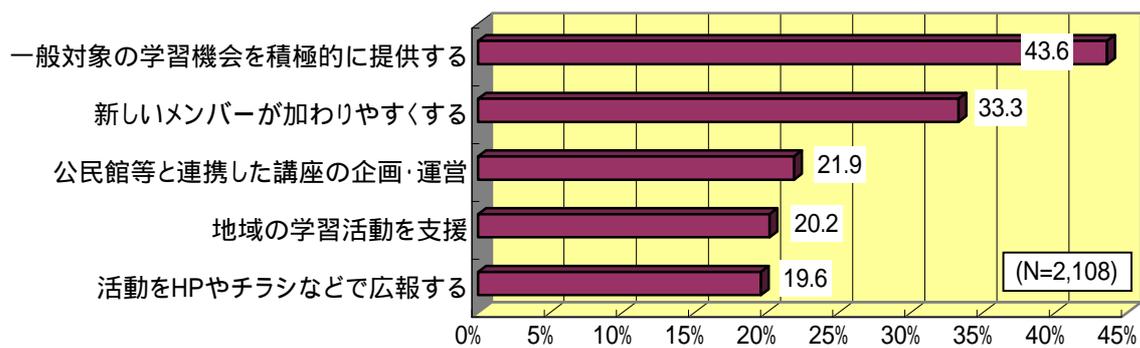
学校や大学に期待すること(上位5位)

問22



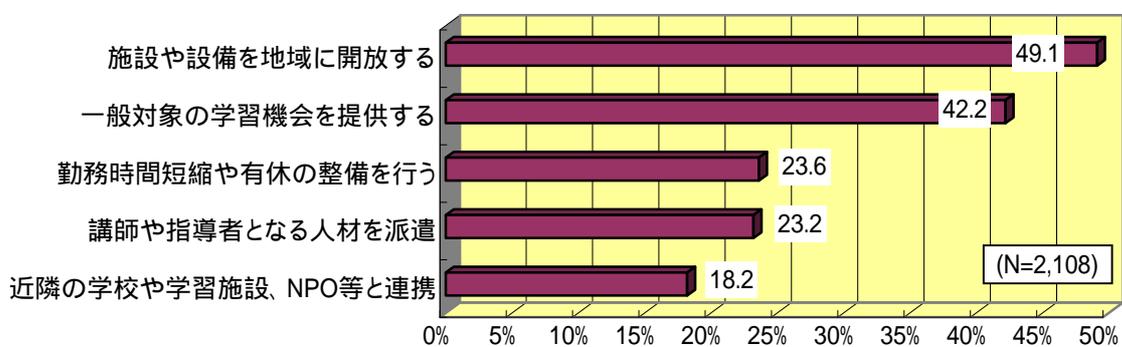
NPOや団体に期待すること(上位5位)

問23



企業や事業所に期待すること(上位5位)

問24



年代で異なる生涯学習の姿

20歳代

仕事や就職に向けた学習活動に熱心な年代

行った学習活動の分野は「仕事に必要な知識・技術」が最も多い。
今後してみたい学習活動は、あらゆる世代で、「趣味的なもの」が最も多い。20歳代では、「仕事に必要な知識・技術」「健康・スポーツに関すること」が続く。
学習活動の成果の活用目的についても、「仕事や就職・転職の上で」生かしている、今後生かしたいと回答した人の割合が各年代中で最も高い。
学習活動の目的は、あらゆる世代で、「自分の楽しみや生きがいのため」が最も多い。20歳代では、「自分の教養や能力を高めるため」と「高度な専門知識や技能を身につけるため」と回答した人の割合が各年代中で最も高く、「友だちや仲間をつくるため」と「地域や社会のことをよく知るため」と回答した人の割合が各年代中で最も低い。
学習活動の情報の入手方法や学習活動の方法（現状、今後の意向ともに）について、「インターネット等」を選んだ人の割合がそれぞれ各年代中で最も高い。
今後大切だと思う学習課題は、「子育て・家庭教育」が最も多く、また、「就職対策や職業能力向上」と回答した人の割合が各年代中で最も高い。

30歳代

仕事や子育てなどで忙しい年代

学習活動をしなかった人の割合が各年代の中で一番高い。(46.8%)
今後特に学習活動をしたくないと回答した人は7.0%に止まることから、30歳代では4割近くの人が、学習活動をしたいが時間がないなどの理由によって現状ではできていないと考えられる。
学習活動をしなかった理由は「仕事や家事のため時間的な余裕がない」が最も多い。加えて、「子どもや親などの世話をしてくれる人がいない」と回答した人の割合も、他の年代と比べて際だって高い。
行った学習活動の分野では「仕事に必要な知識・技術」に関するが最も多く、学習活動の目的も「仕事・就職・転職に生かすため」と回答した人の割合が各年代中で最も高い。
また、「子育て・教育に関する」学習活動をした、今後したいと回答した人の割合が各年代中で最も高い。
今後の学習課題は、「子育て・家庭教育」が最も多く、かつ各年代中でもその割合が最も高い。

40歳代

健康づくりに関心に移り、地域の活動への参加が増えていく年代

行った学習活動の分野について、20～30歳代で最も多かった「仕事に必要な知識・技術」が40歳代では3位になり、「健康・スポーツに関すること」が最も多くなる。
今後してみたい学習活動についても、「健康・スポーツに関すること」の割合が各年代中で最も高い。
学習活動をするために利用した施設は、「公民館・コミュニティセンター」と回答した人の割合が40歳代以上の全ての年代で最も高く、年代とともに高まっていく傾向がある。
学習活動を行った方法は、「地域や自治会の活動等」と回答した人の割合が最も高く、年代とともにさらに高まっていく傾向がある。
今後の学習課題は、「環境問題」が最も多く、「子育て・家庭教育」、「健康」が続く。

50歳代

楽しみや生きがい、趣味的な学習活動へ

「生涯学習」という言葉のイメージについて、20～40歳代で最も多かった「生涯を通じて学ぶこと」が50歳代では3位になり、最も多いのは「生活を楽しみ、心を豊かにするもの」、次いで「趣味・教養を高めるもの」となる。
50歳代以上から、行った学習活動の分野は「趣味的なもの」が最も多くなり、年代とともにさらにその割合が高まっていく傾向がある。
今後の学習課題は、「環境問題」が最も多く、「健康」、「高齢者の生きがい」が続く。

60歳代

仲間づくりに関心の高くなる年代

学習活動の目的は、「友だちや仲間をつくるため」が多くなり、70歳以上ではさらにその割合が高まる。
学習活動を行った方法は「同好の友人・知人によるサークル活動」が多くなり、70歳以上ではさらにその割合が高まる。
60歳代以上の学習情報の入手先としては、「家族や友人、知人から」のほか、「自治会・町内会の回覧など」の割合が高まってくる。
今後の学習課題は、60歳代以上では「高齢者の生きがい活動に関すること」という回答が最も多い。

70歳以上

学習活動に熱心な年代

学習活動をした人の割合が各年代の中で一番高い。(74.5%)
前回調査においては、各年代中で最も低い割合(52.6%)であったため、高齢者の学習活動が盛んになっているといえる。
学習活動をしなかったのは「健康や体力に自信がない」からと回答した人が35.8%と、各年代中でその割合が最も高く、60歳代の10.1%と比しても飛躍的に高いといえる。
行った学習活動の分野は、「趣味的なもの」が5割近くで最も多く、各年代中でもその割合が最も高い。